論文の内容の要旨

氏名：横　田　優　樹
専攻分野の名称：博士（医学）
論文題題：Long-term outcomes and health-related quality of life in patients with autoimmune encephalitis An observational study
（自己免疫性脳炎患者の長期転帰と健康関連 QOL についての観察研究）

本研究は自己免疫性脳炎患者の長期転帰と健康関連の生活の質（Quality of Life, QOL）に焦点を当てた観察研究である。自己免疫性脳炎は急性期に重篤な症状を認めるが、集中的な治療により改善し、modified Rankin Scale（mRS）による評価では最終的な予後は良好とされている。しかし、発症から数年経過しているにも関わらず精神的、社会的な問題を抱え、社会復帰に影響を及ぼしていることが確認されている。本研究では 21 人の患者を対象に、mRS に加え、後遺症の有無と内容について対面や電話でのアンケート調査を行った。また Neuro-QOL を用いて Health-Related QOL（HRQOL）を調査した。

研究方法として、2011 年 1 月 1 日から 2020 年 10 月 31 日までに日本大学医学部附属板橋病院で治療を行った脳炎患者のうち、Graus AE criteria 2016 に基づき definite/probable AE と診断し、連絡がとれ、対面や電話でアンケート調査を行った 21 人を対象とした。対象の患者に対して身体機能（mRS）、後遺症の有無、社会復帰状況を調査し、QOL の評価は Neuro-QOL を用いて行った。Neuro-QOL は神経疾患患者の QOL を評価するために開発された指標で、12 のドメインにわたる質問紙に基づく。12 の各ドメインの評価を行うだけではなく、患者の physical, mental, social ドメインの包括的な評価と全体の QOL を評価するために、今回の研究では「Physical QOL」「Mental QOL」「Social QOL」「Global QOL」を定義し評価した。

結果として、social QOL の within normal group と under normal group の比較では、social QOL under normal group の患者は後遺症が有意に多く、社会復帰率も有意に低かった。後遺症の有無による比較では、後遺症がある患者はない患者に比べて社会復帰率が有意に低く、global QOL と social QOL の T-score も有意に低かった。

この研究は、自己免疫性脳炎患者の長期転帰を mRS だけでなく、後遺症や社会復帰、Neuro-QOL など多面的に評価を行った。後遺症のある患者は以前の職場や学校生活への復帰が困難であり、HRQOL の悪化が顕著であった。自己免疫性脳炎において早期診断・早期治療により後遺症を抑えることは、発症から数年後の社会復帰、HRQOL を改善する可能性があることを示唆している。